

校長の話

校長 上村 哲也

戦争の怖さと平和への願い

3月になり、すっかり春めいてきました。登校してくる皆さんの表情も明るく、残し少ない3学期を大切に過ごそうという気持ちを感じます。この時期に、朝会でこんな話をするとはいえませんが、身近な世界で今起きている出来事を知ってほしいと思い、この話題を選びました。

ロシアという国が2月24日に、ウクライナという国の軍隊の施設への攻撃を始めました。ロシアはとても大きな国で、強力な軍隊を持っています。その西側にウクライナがあります。2つの国は仲の悪い関係ではありませんでしたが、これからの国の在り方について考え方が異なり、ついにロシアが戦争を始めました。戦争は武器を使って目的を果たそうとする行いです。最も酷い暴力だと思います。遠い国の話のように感じるでしょうが、ロシアは日本の隣の国です。とても身近なところで戦争が起こってしまったのです。

戦争という方法を選んだのはプーチン大統領です。この日だけで11の空港と83の軍の施設を攻撃したと話しています。ウクライナのゼレンスキー大統領は137人が亡くなって316人がけがをしたと話しました。

その後、人々の家なども攻撃を受け、被害は日増しに大きくなっています。

ウクライナの人たちは、攻撃されないように地下鉄の駅に隠れたり、隣にあるポーランドに逃げたりしています。写真に見るこの家族は一体どんな思いで故郷を離れようとしているのでしょうか。

これは、図書室にある朝日小学生新聞の一面です。見出しには「各地で 戦争やめて」と書いてあります。ロシアのウクライナ攻撃に対して、世界の多くの国々で反対する抗議活動が行われています。

例えば、ロシア中でも反対運動が広がっています。ロシアのプーチン大統領が選んだ戦争に対し、反対し、ウクライナの人々のことを心配しているロシア人がたくさんいるということです。

私たちの国、日本でも反対運動が広がっています。東京の新宿駅前で行われた反対デモでは、ロシア人が「ロシア人は戦争を応援しない。プーチン大統領すぐに戦争をやめて。」とプラカードで訴えています。日本にも多くのロシア人が暮らしています。その人たちがウクライナ人と一緒になって平和を願っています。

ここで、みなさんに考えて欲しいことがあります。戦争はもちろん決してあってはならない行いです。ですが、ロシア人の中にも戦争に反対し、平和を願う人がたくさんいるのだということを知ってほしいのです。「ロシアが戦争を始めたのだからロシア人はみんな悪い人だ」というのは誤った考え方で、こういう偏った見方や考え方を偏見といいます。戦争の怖さの一つは、この偏見を生んでしまうということです。戦争という行為は確かに歩んではいけない道ですが、だからロシアの人すべてが悪いということではありません。

それからもう一つ、知ってほしいことがあります。実は、これまでに戦争の道を歩んだ国々は他にもたくさんあるのだということです。詳しいことは、中学校で勉強することになります。そんな国を一つ紹介します。その国はどこだと思いますか？ 6年生なら思い浮かべることができるでしょうか？ 私たちの国、日本も、戦争という道を選んだ国の一つです。

今からおよそ80年前のことです。そのころの日本は人々の生活が苦しく、多くの会社の仕事がうまくいかず、街は仕事を失った人たちであふれていました。また、農作物の栽培もうまくいかず、食べ物が足りずに人々は飢えに苦しんでいました。そのような時、日本は新しい豊かな土地を求めてお隣の国である中国の中に「満州国」という国をつくりました。そして、日本の力が及ぶ場所をもっと広げようとし、中国の都市を次々と攻めていきました。これを「日中戦争」といいます。

この戦争は長く続き、さらに範囲が広がり、ついに、世界でも有名な観光地の一つであるアメリカのハワイを攻めていったのです。ここから始まった戦争を「太平洋戦争」といいます。6年生はこのあたりのことを学習したばかりですね。

私たちの日本は、戦争という経験をして、そこから平和の大切さを願い、二度と戦争をしないことを誓い（日本国憲法）、世界の国々とよく話し合い協力しながら新しい国づくりを進めてきました。そして、これからも世界のもっと多くの国々と仲良くしていかなければなりません。

今、まさに、ロシアとウクライナの間で戦争が起こってしまいましたが、一日も早くウクライナの人々の平和な暮らしが戻るように願うばかりです。そのために、まずは今起きていることにしっかりと目向けましょう。そして、人々の大切な命を奪う争いをなくすために私たちに何かできることがあるのでしょうか？身近なことから考えてみてください。

※朝会では、地図や写真資料などを提示しながら話しました。

